



ニュースレター

# SDM NEWS

公開講座「ITで変貌する社会と日本企業の未来」にて講演中の夏野剛氏

2012年

11

月号

## 行事予定

2012年12月8日(土) 13:00 ~ 17:00

### SDM研究科説明会

@日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/12/08-131224.html>

要事前登録 無料

2012年12月12日(水) 19:00 ~ 20:30

### 慶應SDM公開講座「ココロの刺し方 ～人の心に刺さる企画をつくらう～」

講師: 内田伸哉氏

@日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/12/12-111113.html>

要事前登録 無料

2012年12月15日(土) 13:00 ~ 17:00

### 第1回未来デザイン会議

@日吉キャンパス協生館

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2012/12/15-084542.html>

要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

[http://www.keio.ac.jp/ja/event/201211/201211\\_index.html](http://www.keio.ac.jp/ja/event/201211/201211_index.html)

通算48号 2012年11月発行

**SDM**  
System Design and Management

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>



専任教員からのメッセージ

## SDM研究科のニーズ志向とシーズ志向

SDM研究科では、システム思考、デザイン思考、マネジメント思考の教育、研究を行っています。とくに必修科目であるデザインプロジェクトでは、デザイン思考とシステム思考を組み合わせた授業を行っています。つまり、デザイン思考でユーザーの行動観察をしたり、プロトタイプを作ってトライアルアンドエラーを行ったりすることで新しいニーズを発掘した後、新しいコンセプトを打ち立て、それをシステム思考の方法を用いて、システムとしての構築、検証を行っています。ニーズ志向の重要性は以前から叫ばれていて、SDM研究科のこのようなニーズ志向の活動はその流れに沿っているものですが、新しいコンセプトを実現するには、リソースやシーズも必要になります。SDM研究科のもうひとつの大きな特徴は、そのようなリソースやシーズも持ち合わせているという点です。それはSDM教員の専門知識だけでなく、学生の半数以上を占める社会人学生の様々な専門知識、経験、新卒学生も含めた人的ネットワークがあるという点です。SDM研究科ではこれらの資源を今後さらに活用して新しいマーケットのデザインをしていきたいと考えています。

SDM研究科教授 春山真一郎

## 最近のニュース

TOPIC 1

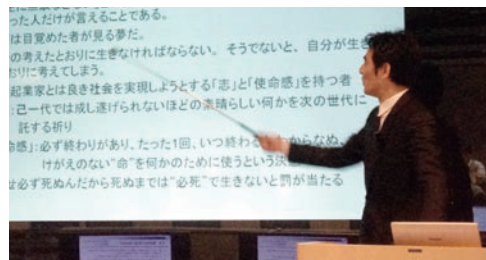
### 起業デザインラボ特別企画「慶應SDM 学生・OBに起業・経営体験を聞く」開催報告

今年度発足した起業デザインラボでは、イノベティブなビジネスプランについてのグループディスカッションや「ビジネスモデル・ジェネレーション」などの本の勉強会と並んで、慶應SDM学生や修了者で起業・経営経験のある者の経験談を聞く塾生限定講座を開催している。9月より、順に、SDM研究所研究員の櫻井智明氏、修士課程1年の栗原志功氏、SDM研究所研究員の本山憲誠氏、修士課程2年の門倉泰寛氏、修士課程1年の高坂有良氏、修士課程2年の若尾尚美氏の講

演を行った。それぞれの生々しい起業経験談やノウハウは非常に実践的であり、ビジネススクールでは聞けない実話に満ちていた。また、SDMで学ぶCVCA/WCAなどの可視化手法を用いた説明も多く、SDMらしい起業デザイン学が構築され始めたということを実感できる講演シリーズであった。今後も起業デザインラボでは様々な企画を実施し、SDMらしいシステミック&システムティックな起業デザイン学の体系化を行なっていきます。ご期待ください。



本山氏の講演



高坂氏の講演



## TOPIC 2 『ダイアログとデザインの未来Vol.5 ～地域と物語の未来～』を開催



拓殖大学国際学部准教授の竹下氏のプレゼンテーション



ものがたり法人FireWorksの栗山氏のプレゼンテーション

SDM研究所とグローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」では、『ダイアログとデザインの未来』をテーマとした公開講座フューチャーセッションを2012年6月から開催してきた。

5回目となる10月5日(水)には、地域における「物語」とその作成プロセスがもたらすイノベーションの可能性について、ものがたり法人

FireWorks 取締役(脚本家)の栗山宗大氏と拓殖大学国際学部准教授(小説家)の竹下正哲氏を講師として招き、セッションを行った。

二人の講師から、住民参加で創り出す映画・演劇の活動紹介が行われた後、参加者全員で対話を行った。地域再生の手法として着目されつつある本テーマへの関心は高く、関西等の遠方からの参加者が多数あり、大盛況のセッ

ションとなった。また参加者の満足度も高く、「物語の可能性を感じた、共感の連続だった」とのコメントが寄せられた。

フューチャーセッションは来年3月まで毎月開催をする予定。SDMのホームページ(<http://www.sdm.keio.ac.jp/>)で募集致しますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

## TOPIC 3 第2回慶應イノベティブデザインスクール開催報告



参加者全員での集合写真

SDM研究科では第2回慶應イノベティブデザインスクール「世界を変える新規事業・起業のためのコンセプトビジュアルライゼーション」を4週連続で開催した。各回ともSDM研究科ならではのビジュアルライゼーション手法を盛り込み、「コンセプトデザインのためのアイデア発想法」、「欲求を考慮したコンセプトビジュアルライゼーション」、「システム思考によるコンセプトビジュアルライゼーション」、「事業コンセプトのビジュアルライゼーション」を各回のテーマとして行った。また、最終回は特別ゲストとして、元Google米国本社副社長兼日本法人社長・前名誉会長であり、SDM研究科特別招聘教授でもある村上憲郎氏にご登壇いただいた。Googleの創業期から事業を発展させていく

過程の事例に、参加者は真剣に聞き入っていた。システム思考とデザイン思考が統合された

分かりやすい講義と演習に、参加者からは全4回を通じて高い評価を頂いた。



グループワークに熱中する参加者



## TOPIC 4 公開講座「ITで変貌する社会と日本企業の未来」開催



夏野剛氏

2012年10月19日に慶應義塾大学特別招聘教授の夏野剛氏による公開講座を開催した。iモードの実用化で知られ、インターネット社会をリードしている氏の講演には、200名近い聴講者が集まり、大盛況であった。1時間半の間に使用したスライドはわずか6枚。IT革命の3つの意味、それに対応できず世界で取

り残されている現代日本の問題点、そしてこれから日本が進むべき方向について、氏の豊富な実体験に基づき、熱く、話術巧みかつ切れ味鋭く語って頂いた。氏の大きなビジョンと的確な分析はまさにシステムデザイン・マネジメントのグッドプラクティスであった。講演の結びでは、日本というシステムには豊富な資金力、

世界トップレベルのITインフラ、教育水準の高さ、労働意欲の高さがあり、トップのリーダーシップさえ改善すれば世界で最も将来が明るいのではないかと、というポジティブな未来予想図を描かれていて、まさにSDMの責任と未来を痛感した公開講座であった。

## TOPIC 5 『モノ・コトづくり産業でのイノベティブシステムデザイン最前線』セミナー



iTIDコンサルティングによるワークショップの様子



白坂准教授による欲求連鎖分析に関する講演の様子

SDM研究所イノベティブデザインセンター主催による表記セミナーを10月31日に開催した。iTIDコンサルティングとのコラボレーションのもと、システムズエンジニアリングおよびデザイン思考の最先端に関する講演およびワークショップを行なった。午前中は慶應SDMの前野隆司研究科委員長およびiTIDコンサルティング取締役コンサルティング最高責任者の北山厚氏による講演を行なった。

また、午後は二部屋に分かれての講演とワークショップを行なった。Aブースでは、人々の欲求に着目したイノベティブなアイデア創出に関するワークショップを行ない、慶應SDMからは白坂成功准教授が欲求連鎖分析に関する講演を行なった。Bブースでは、開発におけるシステムズエンジニアリング体感ワークショップを行ない、慶應SDMからは西村秀和教授が「モデルベースシステムズエンジニアリングの最前線—

SysMLで広がるビュー」と題した講演を行なった。また、いずれも、iTIDコンサルティングからの具体的な手法や適用事例の紹介が行なわれた。

参加者は100名を超え、システムズエンジニアリングとデザイン思考の最先端に対して主に製造業等の企業からの参加者から有益なセミナーだったとのフィードバックを得た。今後も同様なセミナーやシンポジウムを行ない、当分野の成果をさらに社会に広めてゆきたい。

## TOPIC 6 札幌で開催された「ふるさとの入り口」展の報告

農都共生研究会(代表・林美香子特任教授)などの主催、SDMの共催で、10/6～10/21、札幌プラニスホールで開催された「ふるさとの入り口～イマイカツミ絵画展&トークショー」。

富良野で半農半画家として活動するイマイカツミさんが描いた、北海道内の駅舎の水彩画、196点が展示された。札幌市内、道内各地はもとより、道外からの来場者もあり、期間中、3,300人の入場があった。入場者からは、「懐かしい」「旅に出かけたくなった」などの反響が寄せられた。

また、会場内では、土、日、祝日に、多分野のゲストを招き、トークショー(合計7日間、14回)を開催し、毎回、多くの参加者があった。観光、農業、地域活性などをテーマに、林特任教授がコーディネーターをつとめ、農都共生ラボの活動も紹介した。各ゲストの多彩な視点から、「地域の魅力」「地域の未来」を語り合う有意義な場となった。

詳しくは農都共生研究会のホームページ

▶ <http://www.noutokyousei.jp/active/121031.html>



絵画展会場内でのトークショーの模様

## ラボ・センター紹介

# グローバルこと・ものづくり研究ラボ (Global Product Value Creation Research Laboratory)

代表 中野 冠 教授

メンバー 保井俊之特別招聘教授、湊宣明特任准教授、野中朋美特任助教、博士課程学生、  
修士課程学生、SDM研究所研究員、他大学教員、企業関係者ほか



現在我が国ものづくり企業の事業環境は6重苦と呼ばれるほど厳しく、円高を背景とした貿易収支の悪化、国内産業の海外移転などの問題が顕在化しています。本ラボでは、これまで技術力を武器に世界と勝負してきた日本企業の競争力再生を目的として、システム思考ならびに顧客との価値協創力を中心に据えたことづくり志向による企業システムデザインを研究しています。他研究科・他大学・企業等と協力して、我が国のものづくりの課題を抽出し、今後の技術戦略や経営管理のあり方を議論して、企業や政府への提言を作成することを目指します。

## グローバルものづくりの課題

我が国ものづくり企業を次の3つに分けて検討しています。

### ① グローバル製品分野(自動車・家電・半導体・工作機械など)

海外販売の割合が大きい、製品のボリュームゾーンでビジネスをしている、日本経済に占める割合が大きい分野です。

### ② 大規模プロジェクト分野(プラント、ゼネコンなど)

グローバルにおけるビジネスでは経験豊富な人材を必要とし、我が国は、要素技術は高くてもシステム技術は弱いと言われている分野です。

### ③ 先端要素技術分野(精密機械・先端材料(医療用機器、宇宙部品など))

高度技術を有する中小企業も多く存在し、円高の影響は比較的少ない分野です。

これまでの研究から、日本はこれまで自前主義・改善思考・reactive型リスク管理が得意とされますが、今後はグローバル調達主義、システム思考、proactive型リスク管理を取り入れた日本型の経営が望まれると考えられます。



トヨタ自動車株式会社を訪問したラボメンバー

## ことづくり方法論の開発

本ラボでは、次のような課題に対して、システム思考と社会&技術アプローチ(Socio-technical approach)に基づき、ことづくりに関する様々な方法論を研究しています(図)。可視化、ことづくり創発、ビジネス性の定量的評価、事業としてのシステム設計など文理融合の包括的方法論を構築していきます。現在、以下のような対象に対して具体的に研究しています。

- 環境都市デザイン
- 超小型乗用車の社会システムデザイン
- カーシェアリング
- パーソナルエアクラフト
- グローバル商品企画方法論
- 持続可能な都市再開発のデザイン方法論

ラボでは、定期的に会合を開いております。  
皆様の参加をお待ちしています。

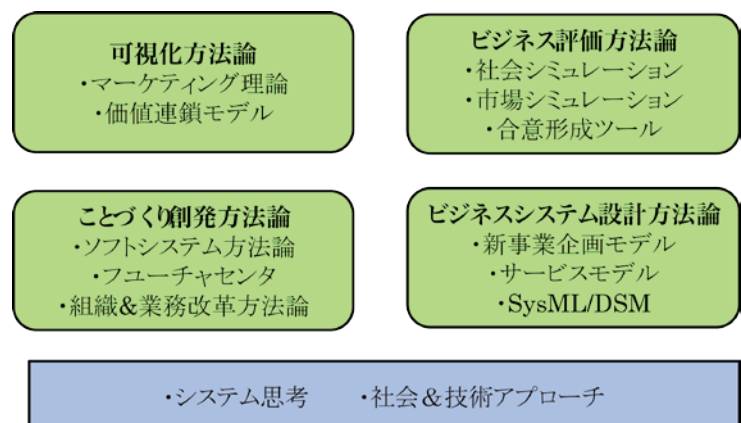


図: ことづくり包括的方法論



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館  
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management